

特集 「いつもの暮らし」を守る！ ごみ処理最前線

環境課資源循環担当 0594-515533 (C)



写真：タカマツ株式会社

いつも変わらずに行われているごみの回収。
ですが、コロナ禍で日常生活が変化する中、ごみの収集・処理業務にも様々な変化が起きています。
今回はごみの収集・処理に携わる皆さんを取材し、業務への想いや、1日の様子を追いました。

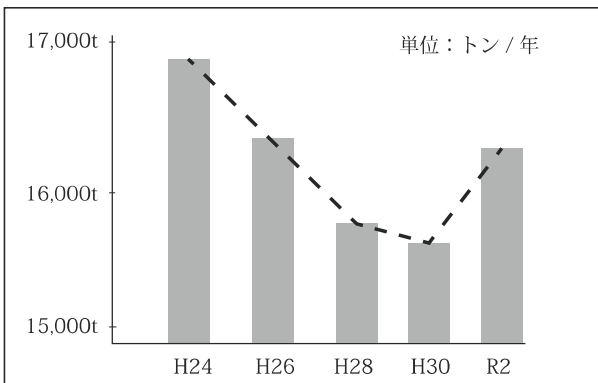
コロナ禍で 大幅に増える家庭ごみ

コロナ禍の前後で私たちの暮らしは大きく変わりました。ごみの世界でもその影響が見られます。

本市では新型コロナウイルス感染症流行前の平成30年度と比べて、令和元年度は2.3%、令和2年度は3.8%の家庭ごみ量増がみられました。これまで人口減少とともにほぼ右肩下がりがだった家庭ごみ量が増加に転じ、令和2年度（人口6万5920人）のごみ量（資源除く）は平成26年度（人口6万8440人）とほぼ同じ水準です。家庭ごみ増加の傾向は全国的で、埼玉県全体でも、特に令和2年5月～6月の緊急事態宣言中のごみ量が前年同月比で18.7%増加しています。

ごみ量増加の背景にはコロナ禍における私たちの生活様式の変化があると考えられます。外出自粛やテレワーク、オンライン授業などで、自宅で過ごす時間が長くなり、家庭で食事をする機会が増えたことによる「もやせるごみ」の増加、テイクアウトや食卓宅配アプリの活用による取り寄せ・ネットショッピングなどの利用が進んだことによる、商品を包装する「プラスチックごみ」「もやせないごみ」の増加、室内整理の時間が増えたことによる「粗大ごみ」の増加などです。

北本市家庭ごみ量（資源除く）



インフラを止めない。 ごみ処理業務の最前線

ごみの収集、処理は水道や電気と同じく社会生活に欠かすことのできないインフラ業務の一つです。地方自治体には、たとえ大規模災害が発生した場合でも、市民が日々排出するごみの収集、処理を継続する必要があります。これはコロナ禍であっても同じです。今回は、そんな社会生活に欠かせないごみ処理業務の最前線で日々汗を流している「ごみ収集作業員」と「ごみ処理施設職員」の皆さんにお話を聞きました。

Q. コロナ禍の前後で、収集業務に変化はありましたか？

A. ごみ集積所の家庭ごみの量が増えました。ごみの量が増えると作業時間が長くなります。ごみが多い時は、ごみ処理場の運営終了時刻の16時ギリギリまで搬入していることもあります。

また、ごみの量が増えたことで、カラス避けネットからはみだしたり、ごみ収集庫の外にごみを置いてしまい、カラスに荒らされてしまいうごみ集積所を以前より多く見かけるようになりました。

Q. 感染症対策として行っていることは何かありますか？

A. 車のドアやハンドルなど手が触れるところの消毒を行っています。あと、作業中マスクを着用するようになったので、特に夏の収集作業は過酷ですね。

Q. ごみの収集業務をしていて、やりがいを感じることはどこですか？

A. 収集作業中に住民の方から「いつもありがとうございます。」「と声をかけていただいたり、ごみ袋に「お疲れ様です。」「と書かれた貼り紙を見つけたときは嬉しいです。とても力になっていきます。」



Q. ごみの排出に関して、市民の皆さんに「お願いしたいこと」はありますか？

A. ごみの量が増えたこともあり、もやせるごみの袋の中に弁当のプラスチック容器が混ざっているような、未分別ごみが増えています。ごみ出しのルールを守り、適切なごみの排出にご協力をお願いします。



ごみ処理施設職員 青木伸祥さん (埼玉中部環境センター)

Q. ごみ処理施設ではどのようなコロナ対策をしていますか？

A. アルコール消毒とマスクの着用、対面仕切りの設置、また、接触を避けるため、粗大ごみは搬入者自身で降ろしていただくよう御協力をお願いしています。

Q. コロナ禍で、ごみの量には変化がありましたか？

A. 一般家庭のごみ量が増加しました。特に粗大ごみの自己搬入が増え、多い月で約80%増加しました。

Q. ごみ出しの時、気を付けて欲しいことはありますか？

A. やはりごみの分別は守っていただきたいですね。特に、携帯電話などに使われるリチウムイオン電池（※）などの小型充電式電池の混入は絶対にしないで欲しいです。当施設でもこの電池が原因とみられるぼやが起きています。幸い初期消火で済みましたが、火災になると施設が損傷し、復旧するまでごみの受入れができなくなります。施設で破砕処理する前に職員が取り除いた電池は、昨年1年間で約80kgにもなりました。

Q. この仕事を選んだ理由や、今後達成したい目標などありますか？

A. 地元（吉見町）で地域に貢献できる仕事を探す中で、今の職場に出会いました。現場業務が多いイメージを持っていましたが、実際には書類事務が想像より多くて驚きました。個人の目標ではありませんが、今後も2市1町の住民のごみを安定的に処理できる状態を保つことが目標です。

※リチウムイオン電池は強い衝撃を与えると激しく発火する性質があります。（詳細は④ページ）



そのごみ出し、ちょっと待った！ **「電池」、** 混ざっていませんか？

電池、特にリチウムイオン電池は強い衝撃を与えると激しく発火する性質があるため、市では電池を単独で回収しています。決して他のごみと一緒にして排出しないでください。

令和3年1月に広島県広島市のごみ処理施設で「リチウムイオン電池」が原因とみられる火災が発生しました。多量のごみに延焼したことから消火に約2週間、復旧まで約7か月を要し、その間ごみの受け入れができず、全国的なニュースになりました。

既に県内各地で「リチウムイオン電池」との因果関係が否定できないごみ処理施設での火災事故が頻発しており、わたしたちのごみ処理を担う埼玉中部環境センターでもいつ発生してもおかしくありません。

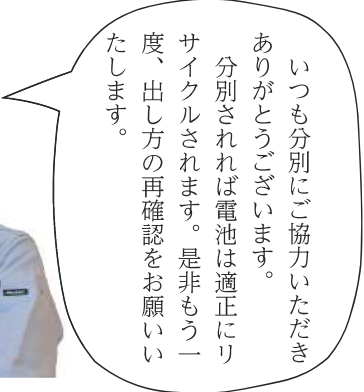
どこに捨てたらいいの？

電池は毎月1回目の「資源回収」か、市内各公共施設の「廃乾電池回収箱」に入れてください。回収している電池は、乾電池、ボタン電池、充電電池、リチウム電池、リチウムイオン電池（携帯電話、掃除機等のバッテリー）です（自動車・バイク用の液体が入ったバッテリーは対象外）。

間違えやすいのが、外装がプラスチックのモバイルバッテリーやコードレス掃除機のバッテリーパック。これも中身はリチウムイオン電池です。絶対にもやせないごみに入れず、上記の方法で廃棄してください。

充電できる家電製品はどうすればいいの？

電池で動く家電製品は、小型のものであれば市内各公共施設の「小型家電回収ボックス」に入れ、大型のもの（掃除機など）は「粗大ごみ」としてください。その際、電池やバッテリーは取り外し、電池として廃棄してください。スマートフォンなど、どうしても電池が取り外せない小型家電製品は、そのまま「小型家電回収ボックス」に入れてください。



県内各地でも、リチウムイオン電池の混入が原因とみられるごみ処理施設の火災が頻発しています。			
令和2年5月	草加市	不燃・粗大ごみ処理施設	
	久喜市	八甫 ^{はつぽう} 清掃センター	
令和2年10月	上尾市	西貝塚環境センター	
令和3年2月	入間市	総合クリーンセンター	



7:00	起床・朝食	力をつけるため、朝食は必ず食べるよう心がけています。
8:00	朝礼	安全確認や点呼を行います。現在はコロナ禍のため、密にならないよう気を付け、検温も行っています。この日から新しく回収が始まるごみ集積所などはこの時に確認します。
8:30～	収集開始	午前中は主にもやせるごみの地区の収集を行います。回収はすべて手作業です。常に二人一組で回り、取り残しがないかを必ず2人で確認しています。ごみ収集車がいっぱいになる度に、何度もごみ処理場まで捨てに行きます。
13:30 ～14:30	昼休み	お昼ご飯は公園などで食べることが多いです。
14:30～	収集再開	午後は主にプラスチックごみを回収します。事業系ごみ（スーパーマーケットや事務所など家庭以外のごみ）の回収をする場合もあります。
16:00～	事務作業	夕方に事務所に戻り、車両の清掃や事務作業などの雑務を行います。
17:30	退社	



暮らしを守るため、
今日もごみ処理は続く。

今回の特集記事は、主にごみ集積所の「家庭ごみ」を収集する市内事業者の皆さんに取材し、作成しました。

市内には他にも、埼玉県や北本市の許可を得て、民間事業として「家庭ごみ」や「事業系ごみ」を回収している事業者さんが数多くあります。また、埼玉中部環境センターでは、24時間365日休みなく、施設運営や維持管理のために職員・事業者さんが勤務しています。今回、すべてをご紹介しますことはできませんが、どの事業者さんもお私たちの生活や企業などの社会活動にとって欠かすことのできない重要な仕事を担っています。

コロナ禍の困難な状況でも廃棄物処理で社会を支えているすべての皆様に、感謝の気持ちをお伝えします。



北本市一般廃棄物収集運搬許可業者一覧
(市ホームページ)

